2022年度の環境・社会等に関する取り組みがまとまりました。ご報告にあたり、私より一言申し上げます。

当社の祖業である酸化亜鉛は、当時の社会問題となっていた白粉の鉛中毒で苦しむ女性や乳幼児を助けるために、事業化したのが始まりです。そこから製品の種類や用途展開を広げていき、現在では皆様の生活のあらゆるシーンで当社の素材が使用されています。当社が掲げるミッション「化学でやさしい未来づくり」は、こうした様々な素材を通じて、社会課題を解決することで体現されていくと考えており、当社ではそれを「Smart Material®」と認定することにしました。

一方で、製品の供給には、原燃料の調達から製造、出荷、納品に至るまで、多くの段階を踏みます。その事業活動自体に付随する環境対応や労働環境対応は当然のこと、今やその対象範囲は事業活動を取り巻くサプライチェーン全体を意識したものへと拡大してきています。また事業活動を取り巻く環境の変化を想定し、それによって生じるリスクの抽出や新たな事業機会の創出を見据えながら、社会との共存共栄に向けた事業運営が問われています。

当社においては、「人々を幸せにする」「地球環境を守る」「モノづくりで社会の課題を貢献する」「透明で強固な経営体制を築く」の4つをテーマに、11のマテリアリティとKPIを設定し、共存共栄に向けた歩みを進めております。その概要についてご説明いたします。

【環　境】

気候変動対応方針（TCFD提言）に基づき、2050年のカーボンニュートラル達成に向かって、まずは中期目標として2030年度CO_2排出量の削減率を30%（対2013年度比）と定め、各取り組みを進めております。またCO_2削減だけでなく、資源の有効活用として廃棄物量の削減にも取り組んでおります。これらの影響は自社だけに留まらず、サプライチェーン全体で強く意識されてきており、当社も地道に中長期目線で進めてまいります。

【社　会】

今年の3月に小名浜事業所の酸化チタン工場で火災事故を引き起こしました。関係者はじめ、多くのステークホルダーの皆様に多くのご心配・ご迷惑をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。湯本工場爆発事故以降、リスク管理と安全衛生の強化を進めていた中でこのような事態を招いてしまい、忸怩たる思いです。幸いにも、怪我人はおりませんでしたが、そういったリスクが潜んでいることを再認識し、安全で安心して働ける職場づくりを徹底していきます。また衛生面でのケアも充実させていき、社員の健康づくりのサポートにも取り組んでまいります。

一方で、働き方やその価値観が多様化してきており、会社も柔軟な働き方を整備し、社員のやる気を引き出すと同時に、その多様性の確保が大事になってきております。当社では新人事制度を導入して2年が経過しました。多様な社員が、それぞれでスキルアップ、レベルアップしていくことは当人にとっても会社にとっても有益です。従って個の力を引き出す仕掛けを行い、活気に満ち多様性に富んだ風土づくりに注力していきます。

【コーポレート・ガバナンス】

激動の時代を迎えている今、当社のガバナンスにおける重要課題として事業ポートフォリオの見直しと経営職人材の育成があります。事業ポートフォリオについては、2022年度に多岐にわたる事業を「成長事業」「安定事業」「効率化検討事業」と位置づけました。今後はその舵取りの「結果」が問われてきます。そして時代に応じてポートフォリオの見直しができる経営職人材の育成が必要です。ステークホルダーの皆様との対話も重ねながら、この重要課題にしっかりと取り組んでまいります。

依然続くウクライナ情勢は改めて地政学リスクを意識させ、世界各地で発生する異常気象、AIの台頭等、私たちを取り巻く環境は日々変化し、先行き不透明感が強くなってきています。そんな中でも「化学でやさしい未来づくり」の実現に向け、柔軟に変化し社会に価値を提供し続ける「化学が深い会社」として、一本筋の通った事業活動を展開していく所存です。

ステークホルダーの皆様におかれましては、今後ともより一層ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長　矢倉敏行